

GLOBAL REPORT

第33号 7月10日

今年度初のグローバルレポートです！最近、“Stay Home”という言葉がたくさん耳にしましたね。未知のウィルスとの戦い、我慢はしょうがない。しかし、みなさんの頭の中まで“Stay”していませんか？

グローバルとは地球を1つのものとして物事を考えること。これから、移動の制限があっても、グローバルな視点を持つことは変わらず必要です。

しかし、“グローバル＝英語”ではない。英語ができて、伝えたいことがない、あるいはそれを使って何かを得ようとしなければ意味がないと思います。

《今回インタビューに答えてくれた先輩たち》

【出雲高校 68 期生 小川和美】

広島大学に在学中。大学卒業後は、出雲に帰り、医療機関で働きたいと考えています。高校時代は、決して、英語が得意なほうではなかったです。海外旅行に行ったことは何度かありますが、留学の経験や海外で生活した経験はありません。日本にいながらでも、英語でアウトプットする機会を増やすことで、英語への抵抗がなくなりました。



【出雲高校 68 期生 片寄佑香】

私は、短期大学卒業後からドイツのミュンヘンに住んでおり、現在は飲食店で仕事をしながら、Webメディアの運営とポスターやフライヤーなどの作成を通じた飲食店のコンサルティングをしています。反対意見を受けながらも自分の夢を追いかけて短期大学に進みましたが、スキルと語学力を生かし、様々なバックグラウンドを持つ方との仕事を楽しんでいます。

ー英語を話せることでチャンスが広がるー

英語が話せることで、自分の将来のチャンスを増やすことができます。国内で就職しても、扱う商品のパッケージに英語表記をすることや、プログラミング用語が英語で書かれていることもあります。そして、出雲市でも在留外国人は増えており、市役所や銀行などで英語を話す方の対応をする機会も増えています。（片寄）

片寄さんは、実際に英語を勉強していたことでチャンスをつかんだ人。

コロナの影響で、飲食店での勤務が制限されたとき、「自分にできることをしよう」と、英語や海外生活などについての記事を載せる”Wasabis”というウェブサイトを持ち上げ、ゼロからウェブ作成の勉強を始めました。そして、数ヶ月後にはそのとき学んだことをコンサルティングという仕事に生かしています。

現在ドイツにいる彼女ですが、仕事相手とのやりとりはすべて英語。短期大学で学んだ料理、新たに学んだウェブについての知識、この二つに加えて英語を勉強していたからこそ、今の仕事ができているそうです。



(<https://wasabis.myportfolio.com>)

ー情報収集のツールとしての英語ー

英語科でなくても、大学ではすべて英語で行う授業もあります。レポートを作る際、英語の論文を読んで情報収集しなければいけないこともあります。私自身、高校時代にもっと英語をがんばっていたらよかったと思うことが多々あります。

英語はコミュニケーションツールとしてだけでなく、情報収集のツールとしても有効です。例えば、日本語検索にかけるより、英語で検索した方が、圧倒的に多くの情報を得ることができます。

また、日本語で検索すると、日本人目線からの情報や考えに偏ってしまうため、限られた情報しか得られません。英語で情報収集することで、多角的な視点で情報を捉えることができると思います。

（小川）

みなさんは、情報収集をするということにまだピンとこないかもしれません。しかし YouTube など、自分の好きなことについて検索をすることはありませんか？これも情報収集のうち。好きなジャンルを英語で検索、読んだり聞いたりできるようになると、楽しめる幅が一気に増えます。

小川さんはファッションや料理が好きで、英語を話す YouTuber さんの動画を見ていたそうですよ。



(台湾の夜市といえばジャンボチキン)

—先輩たちが実践していたおすすめの勉強方法—

- ・ To do list を英語で書いてみる
- ・ 興味があることを英語で調べる
- ・ 勉強した単語で 3 文日記を書いてみる



- ・ 英語で Vlog を投稿する。YouTuber の動画を見ること。
- ・ 英語学習アプリ (hello talk) を使って世界中の人とおしゃべりすること。
- ・ 英語で独り言を言うこと

かなり地味に見えるかもしれませんが、状況を英語で説明する練習をすることができます。

英語学習において大切なのは、単語や文法学習などのインプットに、アウトプットを加えること。

インプットに見える『英語で調べものをする』。自分がほしい情報を英語で調べることも実は英語のアウトプット。日本語で調べものをするときも、どの単語を検索にかけるとほしい情報が得られるか、工夫をしますよね。出てくる情報が少ないときは、単語を変えてみる。出てきた情報を読むことはインプットですが、情報を得るまではアウトプット。

相手がいるアウトプットをたくさん取り入れることは、実際難しいです。しかし、自分でできるアウトプット方法はたくさんあります。英語を難なく話しているように見える人ほど、自分でできるアウトプットを増やす工夫をしています。



—二人から出雲高校生へ—

母国語でない英語を完璧に話せるようになるには、かなり時間がかかるでしょう。ゆっくりでも、間違っていてもいいです。とにかく話してみる、伝えようとしてみるといった思い切りも必要だと思います。(小川)



私はテストで赤点を取ったこともあり、高校時代は英語が特別できる生徒ではありませんでした。みなさんには、テストの点だけで自分の可能性を判断せず、自分のしたいことがあれば全力で取り組んでほしいです、そして英語は受験のためではなく、自分の人生を豊かにするために楽しんで勉強していただきたいです。(片寄)

～グローバルレポート担当 滋野 紗世子～

今回ドイツに住む片寄さんにグローバルレポートを依頼したのは、彼女が海外に住んでいたからではありません。

受験や就職を控えていると、つついそこをゴールとして見てしまいがち。高校の時は文系、卒業後は料理、今はウェブデザインの仕事をする片寄さん。状況が変わっても自分にできることを見極め、必要に応じて新しいことを勉強している彼女の話は、きっと皆さんにとって刺激となるはずだと思い、グローバルレポートを依頼しました。

「海外で働くことだけがグローバルじゃないと思うんです。」という彼女の友人の小川さん。小川さんが旅行で訪れた台湾では、転職をする人が多く、いつ仕事が変わってもいいようにスキルアップをしていくのが当たり前。いずれは、出雲で医療の仕事に就く小川さんも、海外の医療について勉強することを視野に入れたり、目指している仕事に就くことだけをゴールとせずどんどんレベルアップしていこうとする人でした。

「これさえやっていれば大丈夫！」なものはないと思います。役に立つと思ったことがうまくいかなかったり、逆に思いもしなかったことが役にたつ時が来たり。変化があるのは当然。むしろ、変化を楽しめるように、自分のために勉強したり、本を読んだり、頭の中まで Stay せずにたくさん吸収してってください。